

[分類]	普及技術
[成果名]	ブルーベリー灰色かび病防除にアグロケア水和剤、オーソサイド水和剤が有効である
[要約]	ブルーベリー灰色かび病防除にアグロケア水和剤の2,000倍液またはオーソサイド水和剤の500倍液を散布する。アグロケア水和剤はバチルス・ズブチリスの生芽胞を主成分とする微生物農薬である。
[担当]	果樹試験場環境部、農業試験場環境部
[部会]	病虫部会

## 1 背景・ねらい

ブルーベリー灰色かび病は開花期～落花期頃の花器や幼果に発生し、果実を腐敗させる重要病害である。ブルーベリーはマイナー作物であり登録農薬が少なく、生産現場では本病の防除に苦慮している。そこで、平成 23 年、24 年にアグロケア水和剤及びオーソサイド水和剤について灰色かび病に対する防除効果及び被害の有無を検討した。アグロケア水和剤は本年 9 月に、オーソサイド水和剤は平成 25 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

## 2 成果の内容・特徴

(1)ブルーベリー灰色かび病防除にアグロケア水和剤の2,000倍液またはオーソサイド水和剤の500倍液を散布する。

### 農薬登録内容

#### アグロケア水和剤

[一般名及び成分含有量] バチルスズブチリス HAI-0404 株の生芽胞  $5 \times 10^9$  cfu/g  
(FRAC コード<sup>注</sup>):-

[毒性] 人畜毒性：劇物、劇物には該当しない [魚毒性] -

[対象作物に対する適用登録状況（平成 26 年 9 月 30 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
ブルーベリー	灰色かび病	2,000	200～700L/10a	収穫前日まで	-	散布

注) FRAC コードとは FRAC (殺菌剤耐性菌対策委員会) が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は Japan FRAC のホームページ (<http://www.jfrac.com/>) を参照する。

#### オーソサイド水和剤

[一般名及び成分含有量] キャプタン 80.0% (FRAC コード<sup>注</sup>):M4)

[毒性] 人畜毒性：劇物、毒物には該当しない [魚毒性] C 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 26 年 9 月 30 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
ブルーベリー	灰色かび病 すす点病	500	200～700L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	斑点病	500～ 1,000					

注) FRAC コードとは FRAC (殺菌剤耐性菌対策委員会) が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は Japan FRAC のホームページ (<http://www.jfrac.com/>) を参照する。

### 3 利用上の留意点

- (1) ブルーベリー灰色かび病は開花後の花器に残る花弁に腐生的に寄生して、花器や幼果に被害を及ぼすため、開花期～落花期頃の防除を徹底する。なお、本病は「ブルーレイ」のように花弁の落ちにくい品種で発生が多い傾向があるので、このような品種では防除を徹底する。
- (2) アグロケア水和剤に関する注意事項
- ア 本剤はバチルス・ズブチリスの生芽胞を有効成分とする微生物農薬である。なお、主成分が生菌であるので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布する。
  - イ 低温下（10℃以下）では効果が出にくい場合があるため注意する。
  - ウ 予防効果が主体であるので、発病前～発病初期に使用する。
- (3) オートサイド水和剤に関する注意事項
- ア 灰色かび病の防除適期の散布では、本剤散布による果粒の汚れは問題とならないが、果粒肥大が進んでからの散布では、果粒に汚れを生じる場合があるため注意する。
  - イ 水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼及び養殖池に飛散・流入するおそれのある場所では使用しない。

### 4 対象範囲

県下全域、ブルーベリー栽培地域 129ha

### 5 具体的データ

- (1) アグロケア水和剤及びオートサイド水和剤のブルーベリー灰色かび病に対する防除効果及び薬害の検討
- ア 平成 23 年に中野市の現地ほ場で試験を行った（表 1）。5 月下旬～6 月中旬に降雨が多く、無処理区の発病果そう率が 28.9%と中発生であった。  
アグロケア水和剤 2,000 倍液は無処理と比べて防除効果が認められた。オートサイド水和剤 500 倍液は無処理と比較して高い防除効果が認められた。  
両剤とも薬害の発生は認められなかった。

表 1 ブルーベリー灰色かび病に対する供試薬剤の防除効果（平成 23 年、果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査果そう数	発病果そう率 (%)	防除価 <sup>a)</sup>	薬害
アグロケア水和剤	2,000	400.0	11.2	61.2	なし
オートサイド水和剤	500	400.0	3.1	89.3	なし
無処理	—	400.0	28.9		

a) 防除価 = 100 - (処理区の発病果そう率 / 無処理区の発病果そう率) × 100

試験場所：中野市現地ほ場。発生状況：中発生

供試品種：「ブルーレイ」。試験規模：1 区 3 樹、2 反復

薬剤処理：平成 23 年 5 月 25 日（開花はじめ）、6 月 4 日の計 2 回、動力噴霧機で十分量を散布した。

調査：平成 23 年 6 月 24 日に 1 区当たり 400 果そうについて発病の有無を調査した。薬害の発生の有無については随時、観察調査した。

- イ 平成 24 年に上水内郡信濃町の現地ほ場で試験を行った（表 2）。無処理区での発病は発病果そう率が 12.4%と少発生であった。  
アグロケア水和剤 2,000 倍液は無処理と比べて防除効果が認められた。オートサイド水和剤 500 倍液は無処理と比較して高い防除効果が認められた。  
両剤とも薬害の発生は認められなかった。

表2 ブルーベリー灰色かび病に対する供試薬剤の防除効果（平成24年、果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査果そう数	発病果そう率 (%)	防除価 <sup>a)</sup>	薬害
アグロケア水和剤	2,000	400.0	3.1	75.0	なし
オーソサイド水和剤	500	400.0	0.2	98.4	なし
無処理	—	400.0	12.4		

a)表1と同じ

試験場所：上水内郡信濃町現地ほ場。発生状況：少発生

供試品種：「ジャージー」。試験規模：1区2～4樹、2反復

薬剤処理：平成24年5月31日（開花はじめ）、6月11日の計2回、動力噴霧機で十分量を散布した。

調査：平成24年6月26日に1区当たり400果そうについて発病の有無を調査した。薬害の発生の有無については随時、観察調査した。

## 6 特記事項

[公 開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の新規農薬等の効果試験（果樹試）、平成23～24年度（2011～2012年度）、協力研究  
 農薬安全対策総合推進事業（農試）、平成23年度（2011年度）、協力研究